

「第2回自転車セミナー」を開催いたしました！

本会では、新しい自転車利用の社会的認知を図るとともに、高付加価値自転車の普及等の啓発活動を実施し「自転車市民権」の確立を目指すため、自転車と環境・健康問題あるいは、都市交通における自転車の役割や、走行空間など様々な問題を一般の方々と共に考える場として、自転車セミナーを10月から計5回の予定で開催いたします。

《第2回自転車セミナー》

実施日時：平成22年11月30日（火）18時～19時30分
実施会場：日本自転車会館3号館11階（財）日本自転車普及協会
会議室（東京都港区赤坂1-9-3）

タイトル：「遅い交通 その静脈的ネットワークの再構築に向けて」
－自転車共同利用サービスの今後－

講師：東京大学大学院工学系研究科 准教授 羽藤英二

プロフィール：

1999年 工学博士取得（京都大学）

1998－2006年 愛媛大学 助手／助教授

2006年 東京大学大学院工学系研究科 助教授



この自転車セミナーでは、各分野で活躍されている方々を講師にお招きし、自転車についての講演・対談を行っていただく予定です。

第2回目の今回は、東京大学大学院工学系研究科 羽藤英二准教授にご講演いただきました。都市生活学・ネットワーク研究室において、研究・教育活動に取り組んでおられる先生は、ご自身と自転車の関わりについて、研究者として

- ・「自転車共同利用の実装とその社会実験」（2006年より柏の葉・松山・横浜・札幌）
- ・「自転車走行指導帯の社会実験」（2009年より松山）

に取り組んでこられたこと、そしてプライベートでもトライアスロンを趣味とされており、セミナー当日も大学から会場まで自転車に乗って来られたことからお話を始めて下さいました。

この日のセミナーは、都市計画や街づくりに関わる行政機関関係者など、交通手段としての自転車の活用に高い関心をお持ちの方々が大勢参加されました。

先生は、都市における交通手段として自転車をいかに活用するかを、

- ①時代感（世界各国の都市における自転車利用の今）
 - ②交通基本法と交通計画のあり方（フランスの交通基本法の特徴／交通計画の手法論の進化）
 - ③自転車のための方法論（行動データ革命）
 - ④遅い交通を活かす、静脈型交通計画（『モビリティデザイン』）
 - ⑤自転車共同利用のこれから（議論よりも実装の段階へ）
- という構成でお話下さいました。

街づくりに関して自転車を活用すること。自転車は今の時代にまさに見直されているというのが先生のご実感です。

先生がお仕事で参加された「珠海の新都市計画コンペ」では、対岸のマカオの世界遺産を見せるモビリティを提案することが求められ、自転車で移動することを活用して提案されました。

また、ヨーロッパにおける都市移動空間の再生の事例として、イタリア・ボローニャにおける「静脈型交通計画」をご紹介されました。速いスピードで移動する車を人間の「動脈」にたとえ、それと対比して自転車のように遅い速度で移動する交通手段を「静脈型」とたとえています。

こうした取り組みに対し、先生が提唱されているのが『モビリティデザイン』という考え方です。『モビリティデザイン』とは、

1. プラン（物的な移動空間のデザインと整備計画）
 2. プログラム（都市制度とその仕組み）
 3. 都市空間（実現された移動空間及び用いられ方）
- ⇒その連鎖のさせ方を設計すること、です。

「移動について良い構成を工夫すること」一人間中心の移動を丁寧にデザインすることを、モビリティデザインの目標としたいという考え方です。

そのため、21世紀には、20世紀に求められた自動車による「速い＝動脈型」の交通よりも、自転車のような「遅い＝静脈型」の交通がますます重要になると予測しておられました。

モビリティデザインの考え方に基づき、先生が我が国において関わってこられた自転車共同利用の事例について、ご説明頂きました。

先生のまとめとして、我が国においても自転車共同利用サービスは、

- 導入するかどうかの議論よりも、実装の段階に入っている
- 協力と参加の枠組みの構築が重要である
- ネットワーク整備と一体的な位置づけが重要である（どうやって安全に利用してもらうか）
- 道路（走行）空間と空地の再配分が必要である
- 総合交通戦略とモビリティデザインの策定が必要である と挙げて頂きました。

先生のセミナー終了後の質疑応答の時間では、参加された方々から「我が国において本格的な自転車共同利用サービスの実現可能性はあるのでしょうか？」「自転車人気が高まっていますが、マナーをわきまえずルールを守らない利用者も見られます。共同利用サービスの拡大によって、混乱も拡大しないでしょうか？」といった熱心な質問の数々が寄せられました。そうしたご質問のひとつひとつに、先生は真摯に丁寧に答え下さいました。

21世紀の社会において、自転車の持つ可能性をあらためて教えて下さった先生のお話に変感銘を受け、これからの課題を示して頂いたことに感謝しております。

今回セミナーに参加頂けなかった方々におかれましては、次回以降開催予定については下記のとおりとなっておりますので、是非足をお運び頂ければ幸いです。



次回セミナー予定

<第3回>

12月16日(木) 18:00~19:30

講師：(株)八重洲出版 自転車事業部 宮内忍統括部長

題名：自転車による観光振興

～2010年は自転車観光元年、導入ステップと内外の参考事例～

<第4回>

1月27日(木) 18:00~19:30

講師：(株)毎日新聞社 編集局 社会部 馬場直子記者

題名：相次ぐ高額賠償 自転車事故を巡る日本の現状



このセミナーは競輪の補助金を受けて実施いたしました。

<http://www.keirin-autorace.or.jp/>